

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470600956	事業の開始年月日	平成18年2月1日
		指定年月日	平成18年2月1日
法人名	有限会社 イルミネイター		
事業所名	ホームマリア		
所在地	(〒240-0052) 横浜市保土ヶ谷区横浜市保土ヶ谷区西谷町943		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成27年12月31日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

建物は立派な日本家屋で、住空間がとても広い。 利用者個人に応じたケアに努めています。 また日々の食事は、三食とも手作りしており、新鮮かつ安心なものです。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成29年3月10日	評価機関 評価決定日	平成29年6月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 この事業所は相鉄線西谷駅から徒歩3分ほどの国道16号線（八王子街道）沿いにある。建物は鉄骨鉄筋コンクリート造り3階建てで、外観は堅牢な御殿のようである。1階の眼科医院の所有ビルで、2～3階が事業所である。グループホームの玄関は国道側にある。ホーム内部は、古民家風に改築されており、落ち着いた趣がある。居間・食堂は陽当たりが良く清潔であり、テレビなどが置かれ、壁面には利用者と職員で作成した四季折々の行事の飾りつけや塗り絵などを掲示し、季節感や生活感が感じられる。居室（6～8畳）は和室が6室と洋室が3室である。 管理者が看護師として25年の在宅看護歴があり、介護職員の半数以上が3～10年の経験がある。 【理念の共有と実践】 法人代表がキリスト教の牧師であり、聖書より引用した「心に愛を忘れない」を中心に数々の文言が事業所の理念になっている。職員は理念を共有し、利用者を個人として尊重し、尊厳が維持されるようにケアサービスに努めている。 【家庭的な食事作り】 食事は三食とも職員の手作りである。家庭的な献立を考え、食材を購入し調理している。利用者個々の嗜好、食事形態に合わせ提供している。季節感のある行事食のほか、希望を聞いて外食に出かけたり、出前を取ることもある。利用者は調理や片づけなど出来ることを手伝っている。 【医療連携と看取り体制】 医療連携体制加算を算定しており、24時間オンコール体制がある。協力医の内科医師の定期往診が月に2回あり、看護師も月に2回利用者の健康管理に訪れている。歯科医は毎週往診している。利用者が終末期を迎えた場合は、医療機関との連携により、利用者・家族の意向に沿った看取り方針を定め、同意を得て実施している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ホームマリア
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアを心掛けていますが理念の共有という部分は弱いように感じられます。	法人代表がキリスト教の牧師であり、聖書から引用した「心に愛を忘れない」を中心に数々の文言が事業所の理念になっている。理念を運営規程や重要事項説明書に明記し、利用者を個人として尊重し、尊厳が維持されるように、日々の申し送り時やミーティングで周知し意識づけをしている。また、職員心得にも記載している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一度の食事会や焼き芋会など、町内の催しには、進んで参加しています。付き添いの職員も片よらないようにし、顔を覚えてもらえるようにしています。外出時等にも町内の方から、マリアさんと気さくに声をかけて下さいます。	西谷町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。地区センターが毎月開催している「すみれ会」の食事、歌唱、クイズなどに参加している。また、すみれ会には近隣保育園児が訪れるので交流している。ボランティアの来訪が途絶えているので、運営推進会議や地域包括支援センターの支援を得て再開したいと考えている。	行事への参加やボランティアの受け入れ再開など、地域との交流が活性することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで地域、利用者、家族を交えてレクを行うなどして交流の場を設けている。地域の方達は同じ時間を共有することで認知症でも同じ事が出来るんだ、という気づきを得られたり、イメージが変わった等の感想を頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、家族の方達が参加しやすいように心がけており、その結果自由なご意見を頂けるようになりました。また頂いたご意見は代表者にも随時報告し、サービス向上に努めています。	平成28年度は、5月、7月、11月、3月に開催した。会議には利用者、町内会長、民生・児童委員、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加している。会議では、事業所の行事や事故、避難訓練、外部評価結果などの報告をしている。町内会長から、町内会の行事予定や防災訓練への誘いがある。他の出席者からは、西谷フェスティバルへの参加や横浜市の有料ボランティアの紹介がある。また、利用者家族や法人代表、消防署員にも出席してもらい地域交流促進の提案がある。	会議の日程調整などを通じて、より多くの関係者の参加を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な事は、包み隠さずにその都度関係機関に報告、連絡し指示を仰いでいます。	横浜市には事故報告を行っている。保土ヶ谷区高齢・障害支援課には、要介護認定更新申請の代行手続きに出向いている。生活保護費を受給中の方がおり、区生活支援課とは連絡を密にしている。地域包括支援センターとは運営状況報告や困難事例の相談を行い、運営推進会議に出席してもらっている。保土ヶ谷区グループホーム連絡会に加入し、統合失調症対策などを協議している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市役所指導のもと、利用者様の交通事故防止の観点からと防犯上の理由から施錠しています。身体拘束は、一切ありません。	身体拘束を行わないことを重要事項説明書などに明記している。職員には「身体拘束ゼロの手引き」を用い勉強会で周知している。主玄関は国道（八王子街道）に面しており、防犯と安全を優先し施錠している。買い物や外出を望む利用者には、職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての講習等にも参加しており、講習後には全職員で学びの時間を作っています。また地域ボラさん等にも来て頂き開かれた介護をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在二名の利用者様に成年後見人さんがついています。ホーム行事等へのお誘いをし、より関係性を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、契約書、重要事項説明書をもとに納得のゆくまで説明し、納得されたことの署名欄を設けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との連絡はまめに行い、希望や要望を言いやすい関係性を築くよう心掛けています。市役所に寄せられた苦情ありません。	家族には来訪時や花見などの行事の際に要望を聞いて、電話で報告している。寄せられた要望はミーティングで検討し、運営に反映させている。家族への「ホームたより」などは発行していない。課題だった居室入り口の段差には、補助手すりとは可動式のスロープを設置した。	「ホームたより」などを発行して、家族に行事や介護状況などを報告することを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1-2か月毎、代表者発案によるミーティングが開かれ、意見交換業務改善ケアの向上に努めています。今後も定期的開催していく意向です。	管理者は法人代表と月に1回程度面会し、事業所の運営について協議している。職員とは、月1回のミーティングと日々の申し送り時に意見・提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	サービス残業は一切無く、シフト作成にも職員本人の希望にそって、休日、夜勤回数など可能な限り負担のないようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習の参加を随時促しています。また講師の方を招いてホーム内勉強会も実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修報告会を行い、職員よりも勉強になったと感想がありました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	6月入所のSさんは、寂しさから甘えて自己要求が強く出ていました。根気強く見守り対応したところ、現在は大変明るくなり、落ち着いて過ごされています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	昨年入所のTさんは、区役所からの紹介の身寄りのない生活保護受給者でした。他者を信用出来ず、通帳、現金を片時も離さない状態でしたが本人の意思を大切に焦らず対応してきた所、私物への執着も和らぎ、此处に来て良かったと感謝の言葉を職員に下さいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、利用者様が安心して過ごせるように努め、ホーム看護師、協力医と相談し必要に応じて、整形外科、耳鼻科、眼科への受診も定期的に行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの利用者様の特性に合わせ、レクのじ準備や洗濯物の片づけ等の簡単な家事を一緒にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時に、ご家族から利用者以外のことを相談されることもあります。また外出時の車の手配や役所の手続きの代行など、家族の負担が軽くなるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者Sさんは、以前は毎週日曜に教会へ行かれてましたが、体調的なことから現在ではできなくなりましたが、教会の方達が面会に来て下さり、ホーム内でお祈りや賛美歌など歌って楽しい時間を過ごされています。	花見会で家族と交流する機会を設けている。クリスチャンの利用者に教会の友人が訪ねてくる。来訪者には職員が湯茶を提供している。電話の取次ぎや年賀状の代筆は職員が支援している。入居者同士の交流を深めるため、誕生会では美大出身の利用者に挿し絵を描いてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握しお互いの相性等を考慮して食堂の食席を決めています。トラブルもなく一つの空間を共有出来ています。また時期をみて席替えをし、利用者の関係性が偏ることのなうように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取りをさせて頂いた利用者様のご家族から、今でもメールで時節の挨拶などをいただきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から職員は、利用者本人が思いを口にしやすいような関係性作りに努め、個々の要望を取り入れています。例えば音楽鑑賞が好きな方には家族の了解の上、個別に対応しています。	入居時にフェースシートで意向を把握している。その後の把握は介護計画の見直し時に行っている。意向の把握が困難な方には、家族に伺ったり、利用者の表情や仕草から汲み取っている。日々の生活に生き甲斐を持ってもらうため、洗濯物干し、食事の盛り付けなど出来ることを役割として提供している。利用者個々のニーズは連絡ノートで共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者と一対一の時間を作り、写真や手紙等から思い出話の時間を大切にし、得た生活歴等の情報は共有しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室でゆっくりしたい方には、孤立しないよう気を付けながら、本人の気持ちを尊重しています。又太り気味の方には、ご飯の量を調節したり、買い物、階段の上り降りなど個別に対応しています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアミーティングを行い情報の共有、相談を随時行っています。	アセスメントで利用者個々の希望・意向を聞き取り、介護計画を作成している。モニタリングは計画作成担当者が月に1～2回行っている。介護計画の見直しは、短期、長期目標ごとにカンファレンスで評価し、医師と看護師の意見（居宅管理指導書）を取り入れている。心身の状態に変化があれば随時見直している。介護計画と関係した支援経過記録の記載方法については、検討中である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、その記録や日々の気づきを共有しています。また随時ケア介護をもうけ体系的なケアに繋がるように努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様希望の外出の際のタクシーの手配や役所への提出物の記入の代行等、御家族様の負担の軽減になるように心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部の方との交流を計る事が出来る利用者様には、地域での食事会、避難訓練等に参加してもらっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回医師の訪問診療があります。家族の意向からの入居前かかりつけ医とも必要に応じた連絡をとることもあります。	医療連携体制加算を算定しており24時間オンコール体制がある。協力医の内科医師の定期往診及び看護師の訪問が月に2回あり、歯科医は毎週往診している。利用者の1名が入居前の主治医を受診しており、その際及びその他の専門医の受診には職員が付き添っている。認知症の診察は協力医の紹介で精神科医が行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週5日看護師が勤務しております。管理者、介護職員と連携がとれていて、その都度必要に応じた受診等受けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時だけでなく通院治療時も病院関係者と連携を密にしてその時々最善の対応を心がけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が落ち着いている時から、家族には報告、連絡、相談をまめにとり、予測されるであろう状態についても話あっています。	医療連携体制加算と看取り加算を算定している。入居時に契約書の看取り方針を利用者・家族に説明している。利用者が終末期を迎えた場合は、医療機関との連携により、利用者・家族の意向に沿った看取り方針を定め、同意を得て実施している。今年度は無いが、これまでに複数の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルをつくってあります。応急処置の仕方など講師を招いての職場で勉強会もおこなっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練等に参加しています。また常日頃から地域の方達との繋がりを大切にしています。	平成 28 年 6 月に保土ヶ谷消防署に届け出をして自主避難訓練を行った。8 月 27 日には同消防署の消防設備の立ち入り検査を受けた。また、11 月には町内会の防災訓練に職員が参加している。災害備蓄の食料は、利用者と職員の 3 日分以上を厨房の床下に収納している。飲料水は確認して不足分を補充する。停電に備えカセットコンロや発熱タイプの保存食料を備蓄している。また、おむつや排泄物凝固剤も備えている。	災害に備え、年に2回程度の消火・避難訓練（内1回は消防署の立ち合い）を実施し、町内会等との相互協力体制の構築を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ざっくばらんな会話を好む方、丁寧な言葉使いを好む方と様々ですが、個々に合わせた対応をしています。根底に敬いの気持ちを常に忘れずに接しています。又難聴の方には筆談で対応しています。	事業所の理念や職員心得にある「お互いを尊重しあう」「入居者を個人として尊重し、尊厳が維持されるようにします」をミーティングで再確認している。利用者には、敬いの気持ちを常に忘れずに接することを職員に伝えている。これらのことは運営規程や重要事項説明書にも明示している。個人情報に係る重要書類は、事務室の書庫に施錠保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクへの参加拒否等の際には、なぜ？どうして？といった本人の思いや気持ちに耳を傾け、職員の思いで強要せず本人の意思を尊重します。又その際のやり取りはそのまま記録にのこします。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜勤者は、起床時間が定まらない利用者様を無理に起こしたりせず、朝食時間をずらして対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を選んで頂いています。衣服の洗濯を嫌がる利用者様には、本人に気づかれないように交換しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物時に何を食べたいかを尋ねてメニューに取り入れたり、食材選びをしたりしています。簡単な食材の下準備などを手伝って頂いています。	食事は三食とも職員の手作りである。家庭的な献立を考え、食材を購入し調理している。利用者個々の嗜好、食事形態に合わせ対応している。季節感のある行事食のほか、希望を聞いて外食に出かけたり、出前を取ることもある。利用者は片づけなど出来ることを手伝っている。職員は利用者の姿勢にも気を配り、背当てなどで座位を調節しながら同じ食事をとっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をみています。お茶嫌いな方には、甘味を足したり、時にはフルーツやゼリー等も利用します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯嫌いな利用者様に毎日数分でも入れ歯の装着を促し、行っています。衛生士の指導のもと個々に合わせた歯ブラシを使用し、口腔ケアシートも利用しています。毎週1回デンタルクリニックによる口腔ケア実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者Tさんには、夜間帯トイレ誘導を統一し行うことで失禁もなく、ご本人も安心して入眠できています。	排泄が自立の方は2名である。介助が必要な方には排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。トイレに誘導することにより、要介護度5の方でも、おむつからリハビリパンツに改善された事例がある。夜間も見回り誘導している。利用者の希望によりポータブルトイレを使用している方もいる。トイレは各階に1ヶ所ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘予防の上でも野菜を多く取り入れたメニューを考え、毎日新鮮な食材を購入し、食事を手作りしています。腹部マッサージや水分摂取を促しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の拒否があった際は、決して無理強いせず、時間をずらしたり翌日に変更したりと臨機応変に対応しています。又好みの入浴剤を使用したり、入浴時間、温度等に配慮しています。	1日3名の入浴ローテーションを組み、入浴チェック表で確認し、3日に1回の入浴支援が行われている。浴室にはシャワーチェアや浴槽手すりが設けられている。菖蒲湯や柚子湯で季節感を楽しんでもらっている。冬季のヒートショック対策として、脱衣所に電気ストーブを設置し、浴室は温水シャワーで温めてから入浴してもらっている。入浴を好まない方には、無理強いせず、職員が個々に合った対応を工夫している。同性介助は要望があれば対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室での独り寝（昼寝）が出来ない利用者様に無理に自室へ誘導したりせず、食堂自席で職員とともに穏やかに過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧があり、主治医の指示を職員全員に周知し、同じ見解をもてるようにしています。 下剤使用の利用者様には、排便状況に合わせて、調整しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の性格を見極め、家事を手伝って頂いたり、好みに合ったレクを取り入れています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買い物の際には、声掛けを行い、同行しています。外食、音楽鑑賞等利用者様の好みに合わせ、本人の行きたい所へ行けるように支援しています。	利用者と一緒に毎日の食材購入や近所の商店で買い物をしている。地区センターが毎月開催している「すみれ会」の食事や歌唱に参加している。見晴らしの良いベランダで日光浴や外気浴をしている。花見の季節には、川向こうの小・中学校の桜を眺めながら、たこ焼きパーティーを行っている。利用者が高齢化し散歩に出かける機会が減少しており、今後は家族の協力を得ながら外出する機会を増やしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い帳を作り、好みのおやつを一緒に買い物へ行ったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様本人の要望があった際はもちろん、電話等の取次を行っています。また年賀状等も利用者様に代わってその想いを代筆させて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時節に合わせた飾り付けを心掛けています。 職員も進んで掃除や片づけを行っており、清潔を保持しています。	古民家を改築しており、ホーム全体が落ち着いた趣がある。居間・食堂は陽当たりが良く清潔である。エレベーターホールにはソファが置かれている。居間には、四季折々の行事の飾りつけや利用者の作品である塗り絵などを掲示して、季節感や生活感を感じられるように配慮している。利用者は居間でアクティビティを楽しみ、ベランダで外気浴をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たい方、音楽を楽しみたい方各々の気持ちを察し、大切にしています。又、利用者様の気の合う方同士を隣席にする等配慮しています。 独りになりたい方には、無理強いせず、自室で過ごす事も認めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本にご利用者様本人の物を持ち込んで使用して頂いてます。今後のお体の状態も見据えて、より適した物を選びます。 枕が合わずに肩の痛みを訴えておられましたT様に個別に新しい枕を購入し、大変喜んで頂きました。	居室は和室が6室と洋室が3室あり、広さは6～8畳である。居室入り口は段差があるが、補助手すりや可動式のスロープを設置している。居室にはエアコン、照明器具、TV回線が備え付けられている。利用者は使い慣れた整理タンス、テーブル、イス、テレビ、家族の写真などを持ち込んでいる。自費でギャッジベットをレンタルしている方もいる。室内は整理整頓され清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の構造はそれぞれ違い、ご利用者様のお体、認知度に適したお部屋を選んでいきます。		